

演 習

実際にリスクアセスメントの手法を導入し、実施手順に沿ってリスクアセスメントを進める前に「危険性又は有害性の特定」から、「リスクの見積り」、「リスク低減措置の検討」などを演習することにより、リスクアセスメントの進め方が具体的にわかり、さらに危険性又は有害性に対する考え方について参加者の相互理解が深まることが期待できます。

ここでは、1. 惣菜加工(フライヤー)の作業と2. 木材加工の切削加工作業はじめ次の事例をについて用意しました。一人ひとりが記入した「危険性又は有害性と発生のおそれのある災害」を持ち寄り、リーダー(司会)、書記、発表など役割を決め、グループ(4~6名)で検討し、リスクアセスメント実施一覧表を作成することをお勧めします。演習後に後頁のリスクアセスメント実施一覧表(実施記載例)を参照して下さい。

1. 金属加工作のボール盤による穴あけ作業
2. 木材加工の切削加工作業
3. 荷物の運搬作業
4. 印刷・製本の印刷作業
5. 惣菜加工(フライヤー)の作業
6. 裁断の刃(包丁)交換作業



惣菜加工(フライヤー)の作業のイラスト



荷物の運搬作業のイラスト

次頁の演習用紙を活用のこと

演習の基本

①個人作業で、「2. 危険性又は有害性の発生のおそれのある災害」を見て、リスク見積の方法(P10)を参照し、枠内の「4. リスクの見積り」から「7. 対応措置」〔5分〕を記入し、次にグループ検討〔15分〕します。

②再び個人作業で、他の「2. 危険性又は有害性と発生のおそれのある災害」を考え、「7. 対応措置」まで記入し、次にグループ検討〔20分〕します。

(時間は目安です。少なくとも一項目について対策案想定リスクまで記入します。)

③発表や講評を行うと効果的です。